

2017年度(平成29年度)学校評価自己評価表

城東中学校区	校番 13	福山市立蔵王小学校
最終更新日		2018年(平成30年)2月28日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
可能な限り、中学校区で統一した目標・取組・指標を取り入れて、9年間を見据えた系統的な児童・生徒の育成を進めていく。	根拠を明確にして、自分の考えをまとめたり表現したりすることが不十分である。 個人差はあるが、概ね自己有用感、自己肯定感が低い傾向にある。

育成する力 (21世紀“スキル&倫理観”)	スキル ○課題を見つけ、解決の道筋を見いだす力 ○根拠をもって相手を説得する力 倫理観 ○自他を認め合い思いやる態度 ○自らの行動を律し、高まろうとする態度	〈課題発見・解決力〉 〈論理的思考力・表現力〉 〈協働性〉 〈自己指導力〉
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	目標を定める子 ねばり強く学ぶ子 自らを律し行動する子	
中学校区として統一した取組等	校区スタンダードで目指す児童・生徒の姿(達成基準)を系統的に4つのステージで捉え、校区で統一した取組を進め、共通の指標で評価していく。 自ら考え学ぶ授業改善の実現に向けて、校区全体で児童・生徒に育むスキルと倫理観を明確にする。系統的指導のあり方を協議の柱として、校区授業研究を活性化する。	

III 自校

ミッション
○児童が自ら考え学ぶ授業づくり・質の高い教育実践を通して、人(児童・職員)が育つ学校をつくる。 ○人権教育研究指定校まとめの年に当たり、2カ年の研究と実践を県内に広める。
学校教育目標
豊かな心を持ち逞しく伸びる子
現状
<児童生徒> ○思考・表現のスキルの提示と統一指導により、協働的な課題解決力は向上している。また、目標を持って継続的に自己を鍛えようとする意欲や規範意識の高まりは、自己肯定感の高まりにもつながっている。しかし、自ら課題を見出し、自己の取組や結果を評価・修正しながら責任を持って課題を解決しようとする自己指導力には個人差が大きい。 <授業> ○昨年度、人権教育指定校として、図画工作科・国語科を中心に問題解決的な単元モデルや思考・表現のスキルを学校全体で共有し、授業における実践を進めることができた。 児童が題材・教材に対して、「問い」を持ち、課題解決意識を必然的に抱くような教材提示の仕方や児童の対話的な学びを生み出す教師の「切り返し」や「問い直し」の質を向上させていく必要がある。また、自己指導力を鍛えるという点で「ふりかえり」指導のあり方も研究を進めていく必要がある。

育成する力 (21世紀“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	論理的思考力・表現力	協働性	自己指導力	
めざす子ども像	低学年	課題を見つけ、解決しようとしている。	相手の意見を最後まで聞き、自分の考えを持ち、相手に伝えることができる。	友だちの良いところに気付いている。	様々な活動に進んで挑戦し、責任を持ってやり遂げようとしている。
	中学年	課題を見つけ、既習事項や経験をもとに解決しようとしている。	相手の意見を取り入れながら、根拠を明らかにして自分の考えを伝えることができる。	自分や友達の良いさに気づき、お互いに認め合っている。	自らの行動や学びが適切であるか振り返りながら、より良い生き方を考え創り上げようとしている。
	高学年	課題を見つけ、見通しを持って仲間と共に解決しようとしている。	自分の意見と相手の意見を比べながら聞き、根拠を明らかにして自分の考えを、説明することができる。	相手意識を持ち、積極的に人間関係を築こうとしている。	
研究	教科等	国語科・図画工作科 (文部科学省 人権教育研究指定校)			
	主題・内容等	自他を大切にし、認め合い高め合う児童の育成 ～21世紀型スキルと倫理観を育む学びの成立を通して～			
めざす授業の姿	○児童自身が題材・教材に対して、「問い(課題)」を持ち、どの様に解決していくかということを考え、単元のゴールを見通す(つかむ)ことができる授業 ○調べたり話し合ったりして課題を追究し(調べる)、学んだことを根拠を持って交流したり活用したりしながら協働的に最適解を導き出すことができる授業 ○集団における考えの深まりや広がりを振り返ることを通して、成長する自己と集団を実感することができる授業				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立蔵王小学校

年 目	中期経営目標	重 点 分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
						□指標に係る 取組状況	力 加 達 成 評 価	力 加 達 成 評 価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 加 達 成 評 価	力 加 達 成 評 価	総 合 評 価	改善方策
2	自ら考え学ぶ 授業づくりの 推進	★	見直し ・全職員による「気づき・考え・学び合う」授業実践と繰り返し学習の徹底	・思考と表現のスキル、振り返りを位置つけた授業モデルの活用による授業改善 ・学校独自の校内検定(漢字・計算等)を各学期毎に行い基礎学力の定着をはかる。	・児童の学習アンケート(学び合い・意欲・スキルの活用等)の肯定的評価90%以上 ・各自 授業評価票3/4項目達成 ・校内検定平均90点以上達成	□思考と表現のスキル のカードを児童に配布し、授業での活用を促す。児童の肯定的評価90%を達成 □授業評価票3/4を達成したのは職員の75%だった。 □校内検定は平均90%以上を達成。	4	3	・思考と表現のスキル・授業の手立てについて校内研修を継続的に指し導力を高める。 ・授業評価表を活用した授業観察を11月~12月・3学期に1回ずつ行う。 ・校内検定問題の効果的な指導法等の交流を学期ごとに行って活かす。	□思考と表現のスキル のカードを児童に配布し、授業での活用を促す。児童の肯定的評価は85%だった。 □授業評価表を活用した授業観察を行った。 □校内検定は平均90%以上を達成	4	4	4	・思考と表現のスキル・授業の手立てについて校内研修を継続的に指し導力を高める。 ・授業評価表を活用した授業観察を計画的に行った。 ・検定直前だけでなく、1ヶ月に1度は検定に向けた示範授業を行い、全職員が研修する場を設定する。
2	城東校区三訓 「時を守り、 場を清め、礼 を正す」の定着		見直し ・規律と礼儀を育てる「蔵王しぐさ」の徹底 ・協働性と自己指導力を育成する教育活動の開発	・「蔵王しぐさ」(チャイム席、履物揃え、無言掃除、服装、挨拶、言葉遣い)のオリエンテーションと強化月間による規範意識の向上 ・学級力会議の実践化と校内懸賞制度・壮行式の実践	・蔵王しぐさ振り返りで児童の肯定的評価90%以上 ・学級力会議の実践化・各学期顕彰式100%実施 ・自己肯定感・協働性・自己指導力に関わる児童の肯定的評価90%以上	□蔵王しぐさ6項目の実施率の平均値は93% □学級力会議の実施率は87%。 顕彰式は、計画的に100%実施 □自己肯定感の評価アンケートは、87%。	3	3	・蔵王しぐさ強化月間だけでなく、短いサイクルの中間評価を行うと共に、自己評価カードを活用して定着させる。 ・学級力会議を確実に毎月実施し進捗状況の確認を行う。 ・機を逃さない校内顕彰と壮行式の実施により、児童の自己肯定感を高める。	□蔵王しぐさ6項目の実施率の平均値91% □校内顕彰と学級力会議(92%実施)を計画的に行うことで児童の自己肯定感を高めてきた。	3	3	3	・蔵王しぐさリーダーバッジの獲得を目標にするなど蔵王しぐさの徹底に向けて意欲を高める取組を継続する。 ・学級力会議を確実に毎月実施し進捗状況の確認を行う。 ・機を逃さない校内顕彰を継続する。
2	主体的に取り 組む体力づくり の推進		見直し ・自己指導力を育む体力づくり	・児童が目標を持って取り組む体力づくり頑張りカード(体力テスト・水泳・持久走・なわとび等)を活用して。児童の評価・改善力、自己指導力を育む。 ・体力づくりに関するオリエンテーションや表彰、成果の共有を各学期に3回以上行う。	・体力づくり各学年の目標を達成することができた児童を90%以上にする。(水泳・持久走・なわとび等) ・新体力テストの全学年・全項目を視平均70%にする。	□新体力テストの学年目標達成率は85%、水泳の学年目標達成率は88.6%であった。 □新体力テストの県平均以上の項目は67%であった。	3	3	・集会などで、持久走・なわとび等のオリエンテーション・中間結果の報告をして、児童の意欲を継続させ、児童が評価・改善できるようにする。 ・新体力テストでは、体力コーナーを設置し、常時取り組めるようにする。	□マラソンの学年目標達成率は98%、かけ足90%、なわとびの学年目標達成率は90%であった。 □体力掲示板で握力体験コーナーをつくったり、体力優秀者を掲示したりした。	3	3	3	・持久走・縄跳びの取り組みについて計画の見直しと確実な実施を行う。 ・中間報告や校内放送などで積極的に取り組んでいる児童を取り上げていく。
2	保護者・地域 に信頼される 学校づくりの 推進		見直し ・教職員の組織的指導力の向上	・スキル&倫理観の育成に向けて教科と全教育活動のつながりを明確にしたカリキュラム開発の参画意識の向上 ・特色ある教育活動の実践と取組への保護者評価・学校のすばい改善の蓄積による学校満足度の向上	・学校経営参画意識と達成感の教職員自己評価を全職員向上させる。 ・起案・提出期日を厳守90% ・保護者アンケートの学校満足度を90%以上にする。	□学校経営参画チェックカードの自己評価2.9/4点満点であった。 □起案・提出期日厳守86% □保護者アンケートの学校満足度90%以上であった。	3	3	・学校経営参画チェックカードの自己評価が低い職員に期日の確認や指導を行い改善を促す。 ・期日3日前から指導し自覚を促す。 ・引き続き保護者に児童の様子を伝えていく。	□学校経営参画チェックカードの自己評価2.9/4点満点であった。 □起案・提出期日厳守83% □保護者アンケートの学校満足度98%以上であった。	3	4	4	・学校経営参画チェックカードの自己評価が改善するように暮会での伝達・個別指導を行う。 ・期日3日前から指導し自覚を促す。 ・引き続き保護者に児童の様子を伝えていく。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。